

令和6年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福永 悦男 (河川・武庫川整備班主幹 寺田 悟)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	明石川水系		

事業目的

明石川水系において、平成22年(2010)3月に策定した河川整備計画に基づき、洪水対策を実施することにより、治水安全度を向上させ、地域の安全・安心を確保する。

明石川水系河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」

本川

区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
① 明石川 [下流工区]	1.7km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	未事業化	—
② 明石川 [JR橋梁工区]	0.1km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	事業中	R1(2019) 再評価
③ 明石川 [上流工区]	0.8km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	H25(2013) 完了	—

支川

区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
④ 天上川 [下流工区]	0.4km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	H25(2013) 完了	—
⑤ 天上川 [上流工区]	0.6km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	未事業化	—
⑥ 伊川 [下流工区]	1.4km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	H22(2010) 完了 (神戸市施工)	評価対象外
⑦ 伊川 [上流工区]	5.8km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	事業中 (神戸市施工)	評価対象外
⑧ <small>はせたに</small> 櫛谷川	6.1km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	事業中 (神戸市施工)	評価対象外
⑨ <small>ともきよ</small> 友清川	2.1km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	事業中 (神戸市施工)	評価対象外

明石川水系河川整備計画 全体位置図

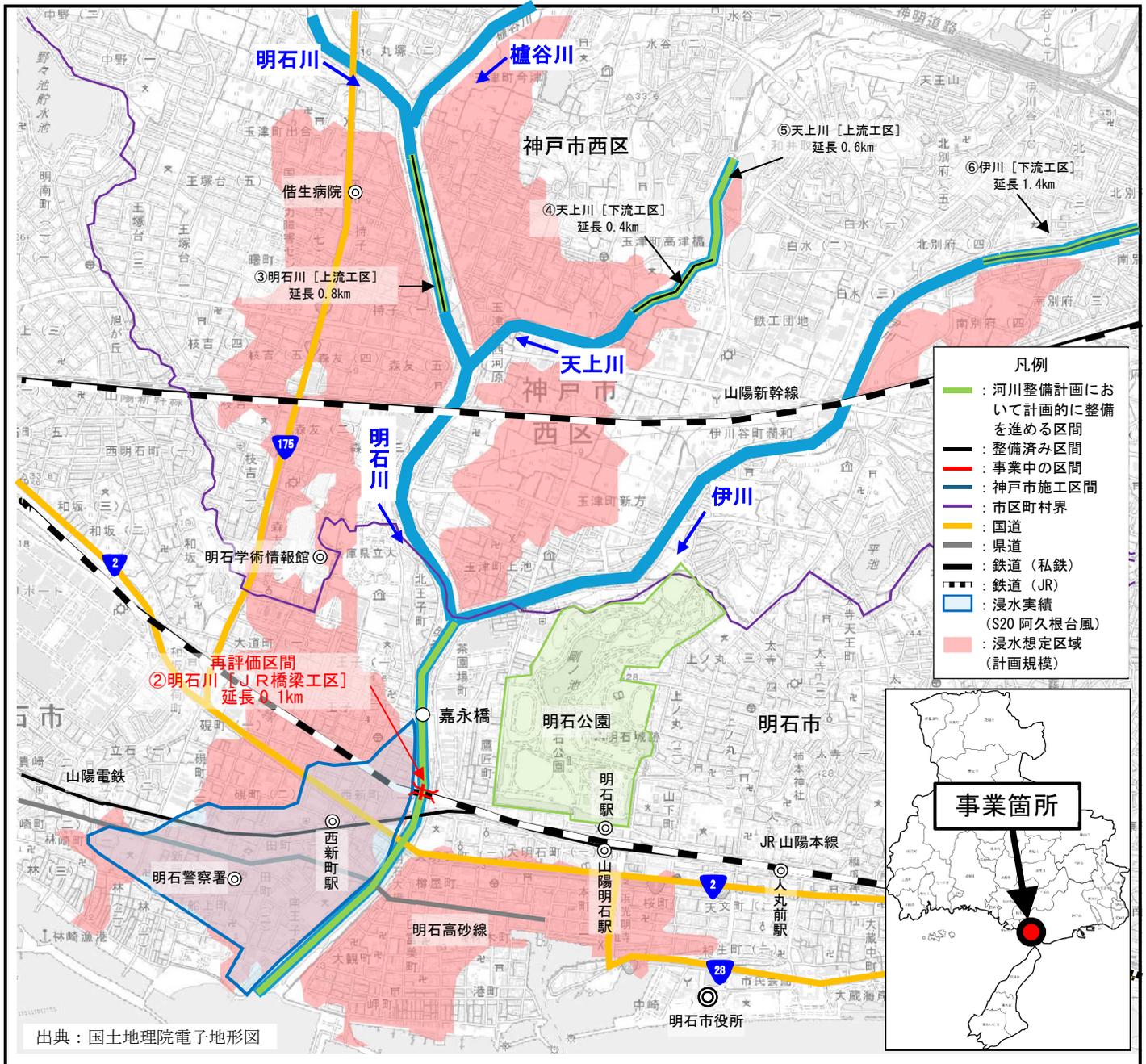


【② 明石川 [JR 橋梁工区] 】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 () : 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成 予定 年度
② 明石川 [JR 橋梁工区]	明石市西新町	JR橋梁改築 河道拡幅0.1km [負担割合] 国:50% 県:50%	事業費	46億円 (41億円)	50% (7%)	23億円 (38億円)	R10 (R7)
			内用補	一億円 (一億円)	－% (ー%)	一億円 (一億円)	

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。	
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(5億円増、3年延伸) [事業費] ・労務・材料単価等の高騰に伴う増額 ・地元協議等による仮設計画の変更に伴う増額 [事業期間] ・新型コロナウイルスの影響による地元説明会の長期化及び仮設の設計変更に伴う事業期間の延伸 ・仮設進入路の計画変更に伴う事業期間の延伸	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和2(2020)年度までに設計、地元協議が完了 令和6(2024)年5月に工事用仮桁の設置が完了 令和6(2024)年度に既設桁・橋台の撤去を実施し、新設橋脚の基礎工に着手予定 	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (R1年度再評価)	【審査会意見】 (継続妥当) なし	【対応方針】 ー
(1)必要性	明石川流域では昭和20(1945)年、昭和42(1967)年などに発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。 【主な浸水被害実績】 ・昭和20(1945)年10月 阿久根台風[床上浸水4,500戸、床下浸水1,011戸] ・昭和42(1967)年 7月 梅雨前線 [床上浸水 398戸、床下浸水 400戸]	
(2)有効性 ・効率性 (事業執行環境)	① 費用便益比：B/C=9.9 (※河川整備計画における全ての事業による費用便益比) ② 河川整備基本方針は平成21(2009)年10月、河川整備計画を平成22(2010)年3月に策定済。 ③ 事業促進に対する地元自治体ならびにJR西日本との協議・調整が完了しており、事業執行環境は整っている。 ④ 地元から早期事業完了の要望がある。	
(3)環境適合性	騒音・振動に配慮した工法を採用するなど、周辺的生活環境への影響を最小限にとどめる。	
(4)優先性	当該事業箇所周辺は、明石市の中心市街地であり、浸水被害が発生した場合に社会経済活動への大きな影響が懸念されることから、早期に整備する必要がある。	
の再 結 果 評 価	継続	左の理由 事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

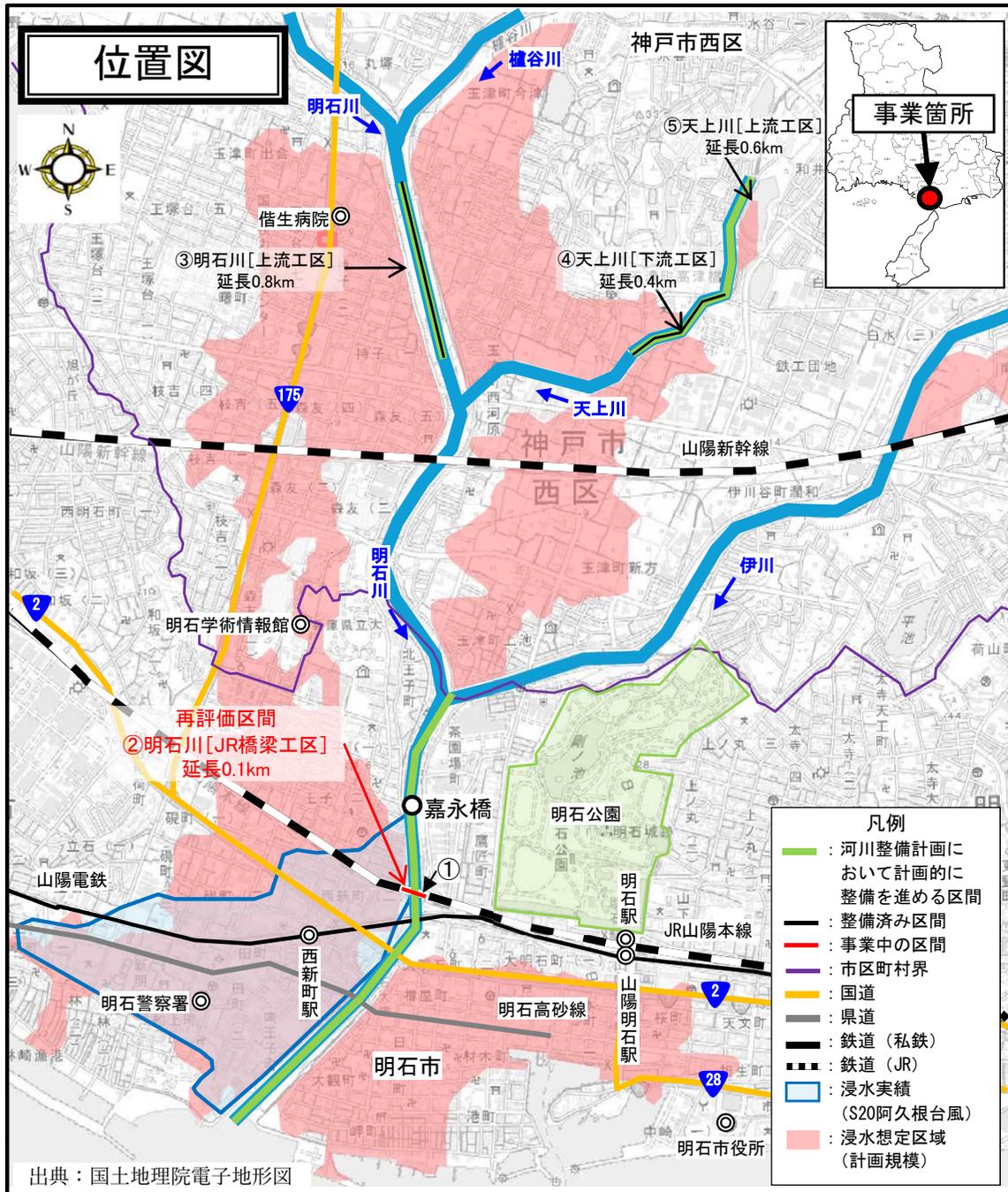
明石川 整備概要図



工区	河川整備計画全体	前回評価まで	前回評価から R6 (2024) まで	今後 5 年 R7 (2025) ~ R11 (2029)
②明石川 [JR 橋梁工区]	H21~R10 年度 【事業費=46 億円】 ・整備延長 L=0.1km ・整備概要 河道拡幅 JR 橋梁改築	H21~R1 年度 【事業費=3 億円】 ・概略、詳細設計 ・基本協定締結	R2~R6 年度 【事業費=20 億円】 ・工事着手 ・JR橋梁改築（仮設工、 仮桁架設、既設橋梁撤去）	R7~R10 年度 【事業費=23 億円】 ・河道拡幅 ・JR 橋梁改築 （下部工、上部工） 流下能力の向上

河川事業 二級河川明石川水系明石川(継続:再評価〔第3回〕)

位置図



目的

明石川水系河川整備計画(H22.3)に基づき、治水安全度を向上(概ね30年に1回程度の降雨で発生する洪水を流下させる)

事業概要

事業区間：明石市西新町

総事業費：46億円

事業期間：H21(2009)～R10(2028)

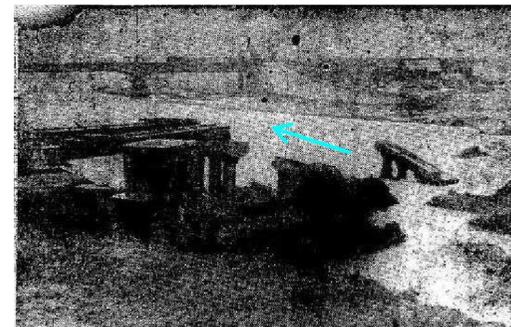
事業概要：JR橋梁改築、河道拡幅

延長：0.1km

費用便益比B/C：9.9 (河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

浸水実績等

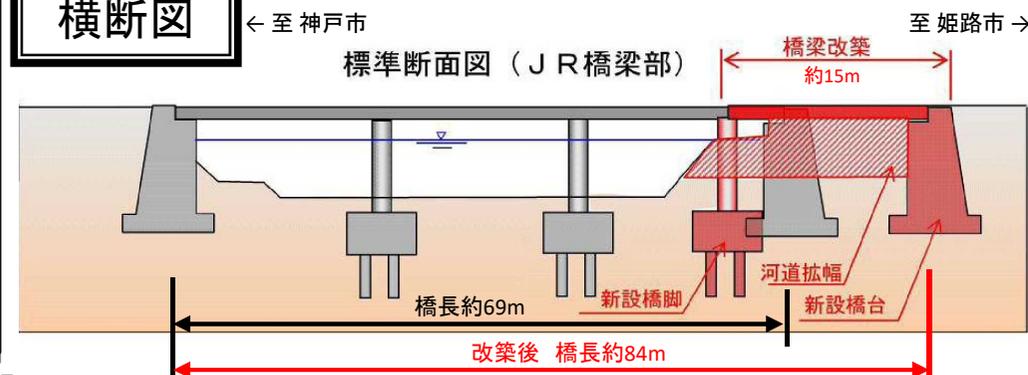
昭和20年阿久根台風による浸水実績



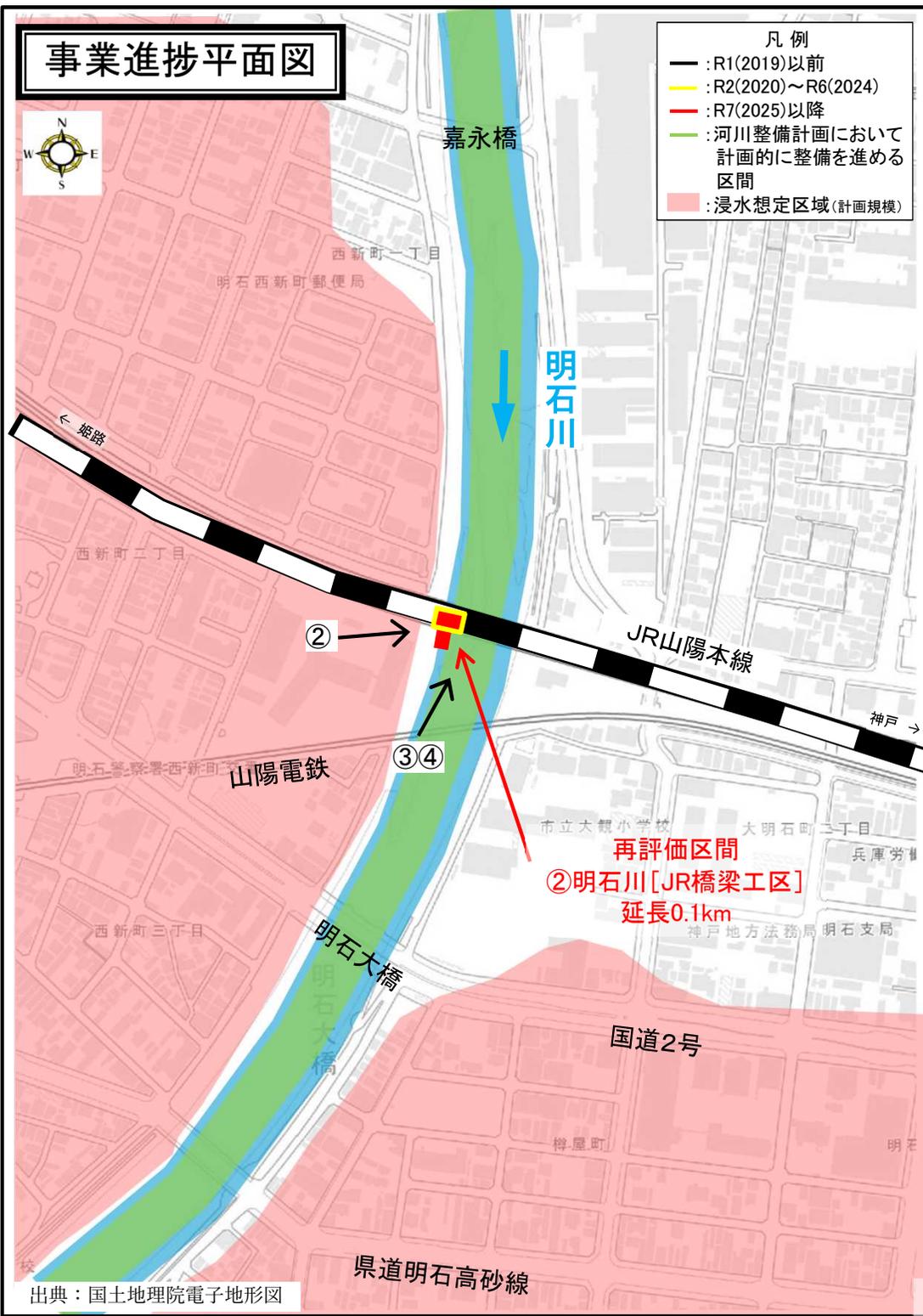
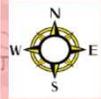
①河川の様相(平成30年7月豪雨)



横断面図



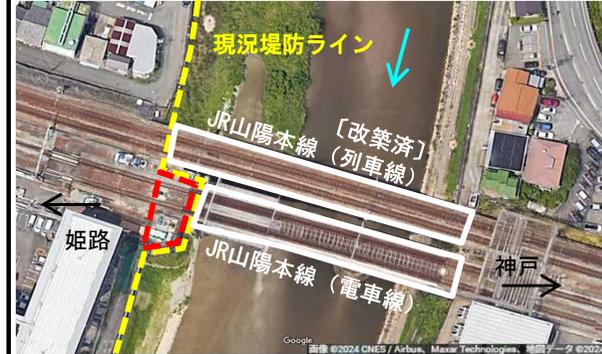
事業進捗平面図



出典：国土地理院電子地形図

現況写真

① JR橋梁工区の航空写真



② JR橋梁部 (工事桁設置)



③ JR橋梁部 (工事着手前)



④ JR橋梁部 (工事桁設置)



工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

		～H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
JR橋梁改築	計画協議・設計	■	■	■								
	工事		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

事業の有効性・効率性

(1)費用対効果

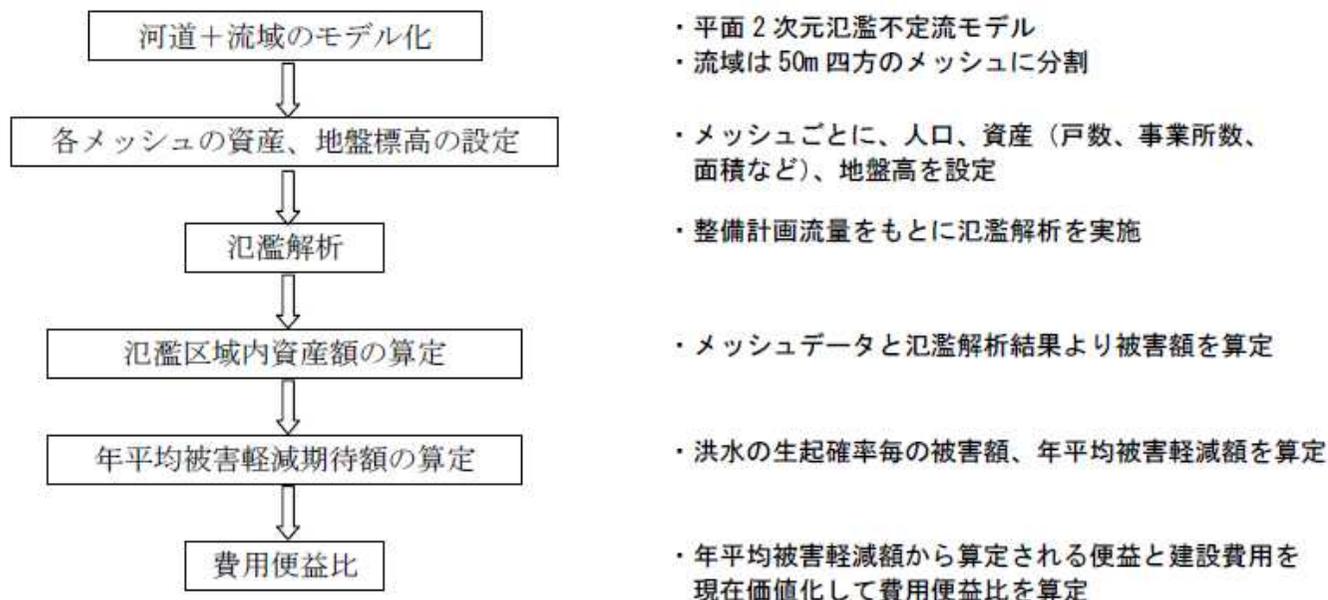
①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

1)便益＝「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

$$\text{被害額} = \text{一般資産被害} + \text{農作物被害} + \text{公共土木施設等被害} + \text{営業停止被害} + \text{応急対策費用}$$

2)費用＝「建設費＋維持管理費」を現在価値化



②費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
439,224 (百万円)	計画規模の降雨に対して、 床上浸水戸数 11,527戸 床下浸水戸数 6,703戸 浸水面積 550ha の解消	44,567 (百万円)	40,882 (百万円)	3,685 (百万円)	9.9

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
魅力ある河川空間の創造	親水空間の整備・景観への配慮

該当する事業内容等	
○	・浸水区域内人口32,952人 ・災害時要救護者11,349人を解消 ・最大孤立者13,037人を解消
○	・道路の交通途絶による波及効果の解消 ・国道2号(交通量21,842台/日) ・一般県道明石高砂線(交通量15,366台/日) 等
○	・機能低下する施設等の解消 ・偕生病院・明石警察署 ・兵庫県立大学明石学術情報館 等
○	・水害廃棄物20,112t、処理費用56,315万円の解消
○	・高水敷に遊歩道を設置し、親水空間の整備を行う。

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	明石市と神戸市で「明石川改修期成同盟会」が設立されており、JR橋梁等の改修に対して強い要望が出されている。
-------	---

参考：事業の変遷

昭和20年 : 阿久根台風(床上・床下浸水 5,511戸)
 昭和28年～ : 中小河川改修事業(現、広域基幹河川改修事業)
 昭和42年 : 梅雨前線豪雨(床上・床下浸水 798戸) 実績3時間雨量146.4mm
 昭和43年～ : 高潮対策事業
 昭和47年～ : 住宅宅地関連公共施設整備促進事業
 (現、住宅市街地基盤整備事業)
 平成元年～ : 都市小河川改修事業(現、都市基盤河川改修事業)
 平成21年 : 明石川水系河川整備計画策定(H22.3)
 平成26年 : 継続事業評価(第1回)
 令和元年 : 継続事業評価(第2回)